

# 断食声明「あとからくる者のために」

(若狭の一住民・一仏教者として)中嶋哲演

2017.5.15 関西電力本社前で

- 福島原発震災から6年、ますます過酷・深刻化している「フクシマ」の被災者たちに心を寄せ、その抜本的で包括的な救済(法的・財政的な整備など)を願い、また、若狭に「第二のフクシマ」を断じて繰り返させないことを願って、今朝から断食を始めました。

- ①関西電力は、高浜原発4 - 3号機の起動を延期し、再稼働を再検討し、断念すること。
- ②国は、大宝(701)と天正(1586)の大地震・津波に関連して、高浜・大飯原発の近傍と冠島の海面下を公明正大に調査し、検証すること。
- ③広範な住民・市民のみなさんは、いつでも、どこでも、だれでも出来る一食断食、一日断食などで、再稼働反対を表明し、その食費を反対運動資金にあてる共通の口座に振り込んでいただくこと。

関西電力は、高浜3・4号機、大飯3・4号機の再稼働のために、すでに数千億円の新安全対策を投じ、高浜1・2号機、美浜3号機、大飯1・2号機の延命にもさらなる高コストを迫られています。その巨額の対策費を脱原発のための準備に転換するならば、離反しかかっている消費者も踏みとどまり、共感し、支持するでしょう。

もし理不尽にも①が強行突破されても、少なくとも②の確約が得られない限り、私は断食を続行する決意です。この私の主張と行為が単なる独断や軽拳妄動でないことを、過去4度におよぶ断食声明によってもご判断いただければ幸いです(参考資料1)。フクシマ以後、今日に至るまで、あらゆる世論調査は再稼働反対が賛成をはるかに上回っていることにも配慮してください。③の持続的な広がりをも確信し、期待しております。

②について。関西電力は私たち若狭の住民の度重なる要望に耳を傾けませんでした。国の調査によって、高浜の海岸から500mの内陸部を襲った天正の大津波の痕跡が発見されました(昨年)。高浜原発はその地点から7kmです。また、大宝の大地震によって陥没した大島(東西2.4km、南北6.4km)の山の頂上は海面上に残ったというのが、冠島の由来です。その海面下に階段状の人工遺跡がダイバーたちによって発見され、話題のスポットになっているのです。冠島から宮津湾内へ13km、海岸から500m、海拔40mの真名井神社に、大宝の大津波をせき止めたという伝承をもつ古い「波せき地蔵」がまつられています。高浜原発4基は冠島から12km、内浦湾の奥懐深く位置しています。関西電力は、最大6.7mの津波にそなえた8mの防潮堤で足りるとしています。地震学者をはじめ歴史学者や考古学者などの本格的な調査が望まれる所以です(参考資料2)。

- 高浜原発(をはじめすべての原発)の再稼働に私が反対する根本的な理由は、決して上記に尽